

はじめに

記録的大雨や大型台風が毎年当たり前のようにやってきて、自然の脅威を思い知らされますが、自然の神秘に感動させられることもあります。私たちは生きていくうえで、地球環境の変化に適応してだけでなく、地球環境を守ることに目を向けていかななくてはならないと思います。



三島駅から見た虹 2020年8月

糖尿病と心不全

心臓は全身に血液を送る臓器ですが、このポンプ機能が低下した状態を心不全といいます。糖尿病は心不全のリスク因子であり、高齢・糖尿病罹病期間・血糖コントロール不良などは心不全のリスクをますます高めるといわれます。糖尿病の合併症としての心筋梗塞では、心筋の動きが悪くなって「収縮不全」となります。しかし糖尿病では収縮力が保たれた「拡張不全」の方が多いとされています。心不全の症状は、労作時の息切れ・倦怠感・むくみなどです。すぐにできる検査としては、心電図・胸部レントゲン・血液検査(NT-proBNP)などがあり、疑わしい場合には循環器内科で心エコーなどの詳しい検査を受けることになります。

心不全の治療薬は、高血圧の治療にも使う薬が主流ですが、糖尿病の薬の中で SGLT2 阻害薬は心不全予防・改善作用も期待されています。

お知らせ

ホームページが新しくなりました。これまで Web 予約は新患のみで受け付けていましたが、再診の患者さんも一部の時間で Web 予約が可能になりました。

こちらからもどうぞ→



糖尿病の検査 <尿検査編>

尿検査は容易であり、多くの情報を得られます。糖尿病における尿検査のポイントをまとめました。

尿糖	診察毎
血糖値が高い時間(約 180mg/dl 以上)があると尿に糖が出ます。SGLT2 阻害薬内服中では血糖値が正常でも尿糖が陽性になります。	
尿蛋白	診察毎
糖尿病の合併症で腎臓が傷んでくると尿蛋白が増え始めます。初期には尿蛋白が陰性でも、尿アルブミンが陽性になることがあります。	
尿ケトン体	診察毎
血糖コントロールが極度に悪い場合や飢餓状態などでケトン体が検出されます。SGLT2 阻害薬内服中や糖質制限中にもケトン体が陽性になることがあります。	

糖尿病の薬の話 <ジェネリック医薬品>

ジェネリック医薬品(後発医薬品)とは、先発医薬品の特許期間が切れたあとに製造・販売されている、先発品と同じ有効成分の薬です。その大きなメリットは価格が安いこと月々のお薬代を軽減できることです。基本的には病気に対する作用は同等ですが、有効成分以外の成分が異なることがあるため、「溶けやすさ」や「味」の違いを感じる方もいます。一方、有効成分以外の成分も先発品とほぼ同じく、価格だけが安い、オーソライズドジェネリック(AG)というものもあります。

当院から発行させていただいている処方箋には、薬剤名が一般名で記載されているので、患者さんの希望によって先発品あるいはジェネリックを選択できるようになっています。

糖尿病の内服薬の中では、比較的新しい DPP-4 阻害薬や SGLT2 阻害薬以外の薬にはジェネリックがあります。なお、インスリン製剤の後発品はバイオシミラーと呼ばれ、製品名の末尾に「BS」とついたものが該当します。